

## 「国際交流協定」時代の幕開け

－国際交流課移管文書より－

東北大学では現在、東北大学として計 206、各研究科・研究所など部局単位で計 407 の海外学術機関（大学・研究所等）と国際交流協定を締結しています。学生の交換留学、海外大学との共同研究や外国人研究者の受入・教員等の海外留学といった様々な国際交流は、東北大学の日常の姿としてすっかり定着したと言ってよいでしょう。

東北大学が海外大学との交流に本格的に取り組みはじめたのは 1970 年代末頃からで、国際交流協定の締結もこの頃からです。1980 年に金属材料研究所がローヌ国立総合工科大学（フランス）と、81 年には工学部と選鉱製錬研究所（現多元研）が中国の東北工学院と協定を結び、後者は 2 年後にさらに「東北大学」と同学院（＝現在の東北大学（瀋陽））の大学間協定へと発展します。これは 1978 年の日中平和友好条約締結を受けはじめた研究者レベルの交流をもとにしたものでした。

当時の国際交流協定は、共同研究や教官の派遣などどちらかといえは研究上の交流が中心でしたが、90 年代以降は学生の交換留学も含む多様な内容になっています。

今回は、国際交流課からの移管文書を中心に、本学国際交流協定の歴史に関する公文書をご紹介します。

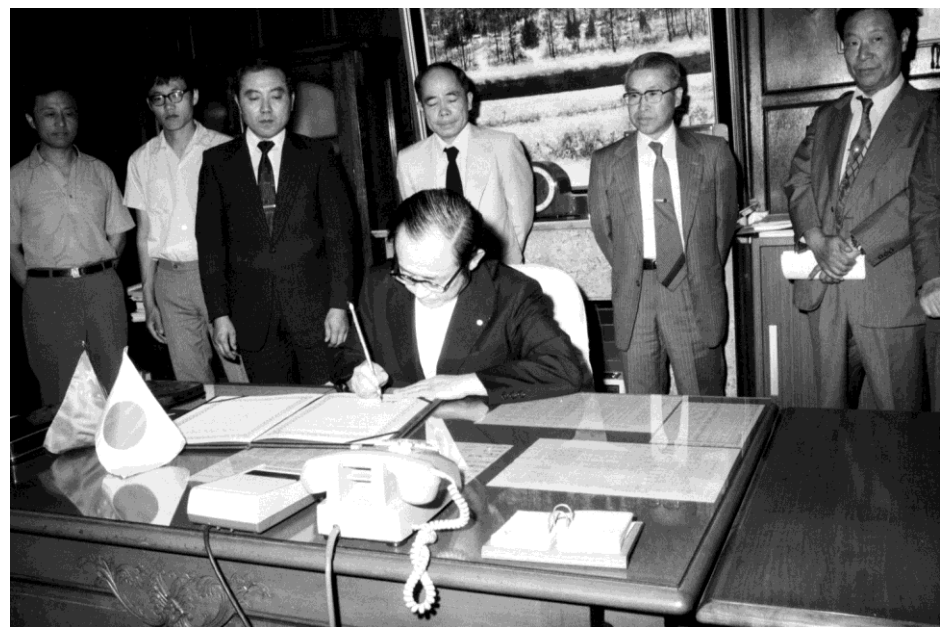


写真 中国・東北工学院（現東北大学）との  
交流協定調印（1983 年 8 月 5 日）